

2021年1月20日

2021年度 春夏プログラム

りんご宇宙 —Apple Cycle / Cosmic Seed

会期：2021年4月10日（土） - 8月29日（日）

弘前れんが倉庫美術館（青森県・弘前市）

参加アーティスト：雨宮庸介、ケリス・ウィン・エヴァンス、河口龍夫、タカノ綾、和田礼治郎
+ジャン＝ミシェル・オトニエル、笹本晃、潘逸舟（ハン・イシュ）

開館2年目を迎える2021年度のプログラムは、英国を代表する現代アーティストのケリス・ウィン・エヴァンスによる当館のための新作コミッションワーク（委託制作）を基点に、異なるテーマのもと、複数のアーティストの作品からなる展示を入れ替える形で、春夏プログラムを第一部【会期：2021年4月10日（土） - 8月29日（日）】、秋冬プログラムを第二部【会期：2021年9月18日（土） - 2022年1月30日（日）（予定）】として構成します。

英国・ウェールズ出身で、世界的に活躍するケリス・ウィン・エヴァンス（1958年～）は、ネオン、音、鏡などの素材を用いて、哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品を制作しています。エヴァンスは、2019年に弘前で作品制作のためのリサーチを実施し、そこで出会ったりんごからインスピレーションを得て、展示室の吹き抜け空間に合わせた巨大な灯（ともしび）、あるいは光のトーテムのような作品を生み出しました。本作は、りんごの断面のフォルムや万有引力の公式、惑星の軌道といったモチーフをグラフィカルに組み合わせた光の彫刻です。

第一部（春夏プログラム）では、りんごをめぐる豊かな思考と想像に着目し、国内外のアーティスト8名の多様な作品を紹介します。りんごは、西洋美術史において、古来より豊穡や生命のはかなさなどの象徴として多く描かれてきました。本展は、必ずしもそうした表象のみを取り上げるものではなく、現代のアーティストによる、りんごを素材とした新たな創作アプローチや、生と死、循環、種子、変容などに関連して、りんごという日常の身近なものから宇宙規模に展開される豊かなイメージのかたちを紹介します。

また、本展には2020年に開催した「Thank You Memory —醸造から創造へ—」展の参加アーティストも加わります。新型コロナウイルス感染症の影響で公開が延期となっていたジャン＝ミシェル・オトニエルの新作彫刻を展示するほか、笹本晃によるパフォーマンスも実施。地元の中学生らとのワークショップやリサーチを通して制作を続けてきた潘逸舟の新作も発表します。

さらには、美術史上のりんごの表象や、「弘前エクステンジ#03」におけるりんごに関する地元の研究や取り組みなどの紹介も併せて、様々な角度からりんごの豊かさと可能性についても触れる機会になるでしょう。



ケリス・ウィン・エヴァンス “...the Illuminating Gas”
Exhibition view at Pirelli HangarBicocca, Milan, 2019.
Courtesy of the artist and Pirelli HangarBicocca, Milan
Photo: Agostino Osio [参考図版]

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

展覧会のみどころ

1. ケリス・ウィン・エヴァンスの新作コミッションワークを初公開

ケリス・ウィン・エヴァンスの新作コミッションワークを新たな収蔵作品として、春夏プログラム・秋冬プログラムの2つのシーズンにわたり展示します。「植物としてのりんごの生」、「りんごからシードルへの加工・生産の残像」、「原罪の比喩（欲望・原動力）」、「ユリイカ（わかった!）の瞬間」、「ニュートンの万有引力から導かれる宇宙の自然法則、太陽の周囲をめぐる軌道」など、りんごをめぐる思考と発想をもとに制作された高さ約7メートルの巨大な彫刻作品を発表します。

2. 8名の現代アーティストによる、本展に合わせた新作を含む多様な作品群で構成

ウィン・エヴァンスに加え、雨宮庸介、タカノ綾、和田礼治郎、潘逸舟も、この場所に合わせた新作を発表します。各アーティストの代表作から近作を含め、絵画から映像、インスタレーション、パフォーマンスまで多様な作品群をご覧ください。

3. ジャン＝ミシェル・オトニエルの新作をついに公開、長期展示作品に

新型コロナウイルス感染症の影響で展示が遅延していたジャン＝ミシェル・オトニエルの新作コミッションワークが遂に公開されます。直径2メートルにおよぶ大型のガラスの彫刻作品は、今後数年間にわたり受付カウンター横の階段前に長期展示され、奈良美智の《A to Z Memorial Dog》とともに来館者をお迎えします。

4. 様々な角度から「りんご」の豊かさとさらなる可能性に触れる

弘前市は全国の市町村の中でりんごの生産量が最も多く、国内有数のりんごの生産地です。「弘前エクステンジ#03」では、りんごの研究に取り組む地元の機関・施設の活動を紹介し、研究者やりんごの生産者を招いたトークイベントやさまざまなプログラムを展開していきます。

【弘前エクステンジ】

当館では、弘前ゆかりのアーティスト、クリエイター、研究者らに注目し、異なる視点が交差・交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、創造的魅力的再発見に繋がることを目指す「弘前エクステンジ」を年間を通して行なっています。

アーティスト・作品について

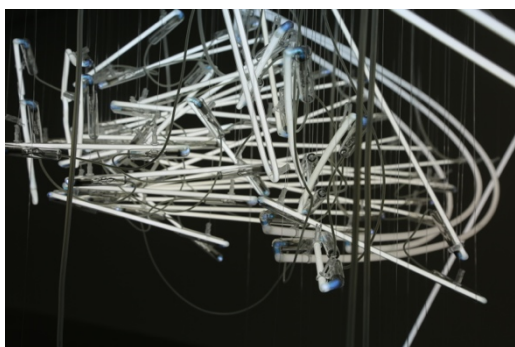
ケリス・ウィン・エヴァンス / Cerith WYN EVANS



Photo: Ali Janka

1958年英国、ウェールズ生まれ。ロンドン在住。
1980年代から実験的な映像作品を手がけ1990年代以降はネオン、音、鏡などを用いて制作。哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品は、国際的に高い評価を得ている。各国の主要美術館で個展を行っており、2019年は巨大な展示空間で知られるミラノのハンガールビコカにて個展を行った。

本展では、弘前訪問を経て美術館の吹き抜け空間に合わせて構想した巨大な彫刻作品《Drawing in Light (and Time)....suspended》を展示するほか、光や音を用いた旧作数点も展示予定。



左：©Cerith Wyn Evans / Courtesy of Taka Ishii Gallery [参考図版]

右：ケリス・ウィン・エヴァンス CG drawing for “Drawing in Light (and Time)....suspended”, 2020

©Cerith Wyn Evans / Courtesy of Taka Ishii Gallery

雨宮庸介 / AMEMIYA Yosuke



1975年、茨城県生まれ、ベルリン在住。
独自の話法を用いたパフォーマンス、普遍性に超絶技巧をかけあわせた具象彫刻、1300年かかるプロジェクトなど、さまざまな手法を用いた作品は、鑑賞者をいつのまにか違う位相へと連れ出し、物事の境界線への再考を促す。

本展では、雨宮の代表作のひとつであるりんごをモチーフとした数々の彫刻作品のみならず、大量のアイディアスケッチやパフォーマンス映像などを組み合わせたインスタレーションを展開。りんごをめぐる作家の思考を垣間見るような展示を予定。



左：雨宮庸介 《Apple》2018年 Courtesy of SNOW Contemporary

右：雨宮庸介 《人生最終作「Swan Song A」の原稿 01》2019年 Courtesy of SNOW Contemporary [参考図版]

河口龍夫 / KAWAGUCHI Tatsuo



撮影：齋藤さだむ

1940年、兵庫県神戸市生まれ、千葉県在住。
1960年代から精力的に作品を発表し続け、国内外より高く評価されている。物と物、あるいは物と人などの相互の関係性をテーマに作品を制作し、多様なものを銅や鉛、蜜蝋で包み封印する作品で知られる。時間や生命、あるいはエネルギーなど、目に見えない関係そのものを作品を通じて顕在化させることで、可視化が困難な概念を鮮やかに提示する。

本展では、河口の代表的な表現手法である、鉛を用いて封印を行った作品など、りんごの種子に関する作品を中心に展示予定。



左：河口龍夫《関係—鉛の郵便・ふた粒のリンゴ》1988年 Courtesy of SNOW Contemporary
右：河口龍夫《関係—化石からの再生》2017年 Courtesy of SNOW Contemporary

タカノ綾 / TAKANO Aya



©Aya Takano/
Kaikai Kiki Co., Ltd.

1976年、埼玉県生まれ、神奈川県在住。
多種多様なジャンルからインスピレーションを得て独自の宇宙を構築するタカノは、至福や理想郷をテーマにアンドロジナスな人物や動物の姿を描いた神話的世界観が漂う作風で知られる。SFをテーマにしたエッセーや漫画も手がける。

本展では、りんご、ヒンドゥー教の歌集バガヴァッド・ギーター、縄文といった様々な源泉から想を得て、独自の超自然的な宇宙観を発展させた新作を含む3枚組の大型絵画作品を発表予定。



左：タカノ綾《Near the Source》2017年 ©2017 Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
右：タカノ綾《Edible Plant Garment, Guardian Deities》2014年
©2014 Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved. [参考図版]

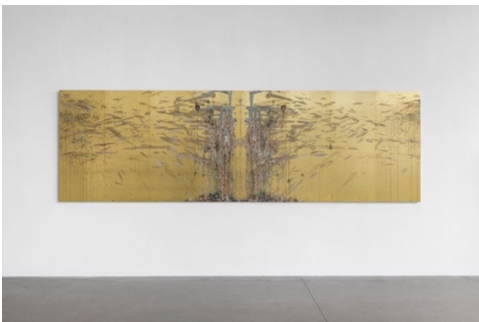
和田礼治郎 / WADA Reijiro



Photo: Enric Duch

1977年、広島県生まれ、ベルリン在住。
形態、時間、液体、自然、生の儂さを暗示する「ヴァニタス（虚栄）」という古来の主題などの諸要素への関心を、独自の手法で彫刻化していく。それは時には自然そのものを用いて環境に直接的に働きかけ、多層的な、生きる彫刻として私たちが生きる空間や時間に介入し、我々の知覚に作用を及ぼす。

東北初の展示となる本展では、これまでの作家の代表作とともに、本展に合わせて新たにりんごなどの果実を用いて制作された新作数点も加えた幅広い作品群による本格的な展示内容を予定。



左：和田礼治郎《VANITAS》2017年 Photo: Enric Duch Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

右：和田礼治郎《Scarlet Review (Okinawa)》2020年 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE

ジャン＝ミシェル・オトニエル / Jean-Michel OTHONIEL

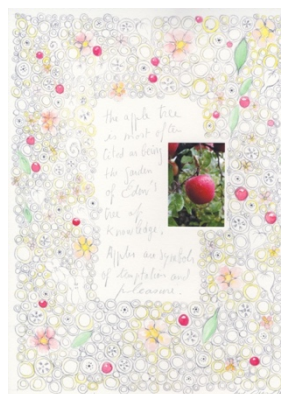
（「Thank You Memory 一醸造から創造へ」展 参加アーティスト）



Photo: Philippe Chancel

1964年、フランス / サン＝テティエンヌ生まれ、パリ在住。
1990年代初頭より、変容、昇華、変異などの現象に関心を寄せながら、可逆性の素材を用いた作品を制作している。特にムラーノガラス等を用いた、展示環境と調和する数々の大型彫刻作品で世界的に知られる。

本展では、展示が延期となっていた新作コミッションワーク《エデンの結び目》を長期展示作品として初公開。さらに、展覧会テーマにあわせて、りんご、シードル、りんごブランデーの色にちなんだムラーノガラス作品なども展示。



左：ジャン＝ミシェル・オトニエル《エデンの結び目》(Simulation from the artist studio) ©Othoniel Studio

右：ジャン＝ミシェル・オトニエル《弘前のりんご》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵

© Jean-Michel Othoniel / ADAGP Paris 2020 Courtesy of the artist and Perrotin [参考図版]

笹本晃 / SASAMOTO Aki

(「Thank You Memory 一醸造から創造へ」展 参加アーティスト)



Photo:
Kazuko Fukunaga

1980年、神奈川県横浜市生まれ、ニューヨーク在住。
空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンスや、言葉、モノを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品を中心に、彫刻やインスタレーションを発表している。

本展では、かつてのシードル工場時代の醸造過程などに着想した当館コレクション作品《スピリッツの3乗》のインスタレーションの一部を再構成し、本作の主要な要素であるパフォーマンスを会期中に実施予定。



笹本晃《スピリッツの3乗》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 ©Aki Sasamoto Photo: Naoya Hatakeyama

潘逸舟 (ハン・イシュ) / HAN Ishu

(「Thank You Memory 一醸造から創造へ」展 弘前エクステンジ#01 参加アーティスト)



1987年、中国 / 上海生まれ、東京都在住。
社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。

本展では、弘前エクステンジ#01の招聘アーティストとして、昨年より継続的に実施中のリサーチや、潘の母校である弘前大学教育学部附属中学校の美術部員とのワークショップなどの成果をもとに、鬼にまつわる新作を発表予定。



左：潘逸舟《おにっこのち》2020年 Courtesy of the artist [参考図版]

右：潘逸舟《りんごジュースの滝》2020年 Courtesy of the artist [参考図版]

関連イベント

オープニングトーク

参加アーティストおよび本展キュレーターによるトークを開催します。

日時 | 2021年4月10日(土) 14:00-16:00

会場 | 弘前れんが倉庫美術館 ライブラリー

料金 | 参加無料 定員 | 30名(予約先着順)

申し込み | 予約サイト URL <https://20210410talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

開催概要

プログラム名 :	2021年度 春夏プログラム 「りんご宇宙 —Apple Cycle / Cosmic Seed」
会期 :	2021年4月10日(土) - 8月29日(日)
開館時間 :	9:00 - 17:00 (入館は閉館の30分前まで)
休館日 :	火曜日(祝日の場合は翌日に振替) ※ただし4月27日(火)、5月4日(火)、8月3日(火)は開館
観覧料 :	一般 1,300円(1,200円) 大学生・専門学校生 1,000円(900円) ※()内は20名様以上の団体料金 ※以下の方は無料 高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満65歳以上の弘前市民の方 ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方1名
主催 :	弘前れんが倉庫美術館
ゲスト・キュレーター :	三木あき子
会場 :	弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1
一般問合せ :	TEL: 0172-32-8950
アクセス :	JR 弘前駅より - 弘南バス・土手町循環 100円バス「中土手町」下車 徒歩 約4分 - 徒歩 約20分 - タクシー 約7分
ウェブサイト :	http://www.hirosaki-moca.jp
SNS :	Instagram : @hirosaki_moca Twitter : @hirosaki_moca Facebook : @hirosaki.moca

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川(公)

TEL: 0172-32-8950 FAX: 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

次回展 開催告知

2021 年度 秋冬プログラム

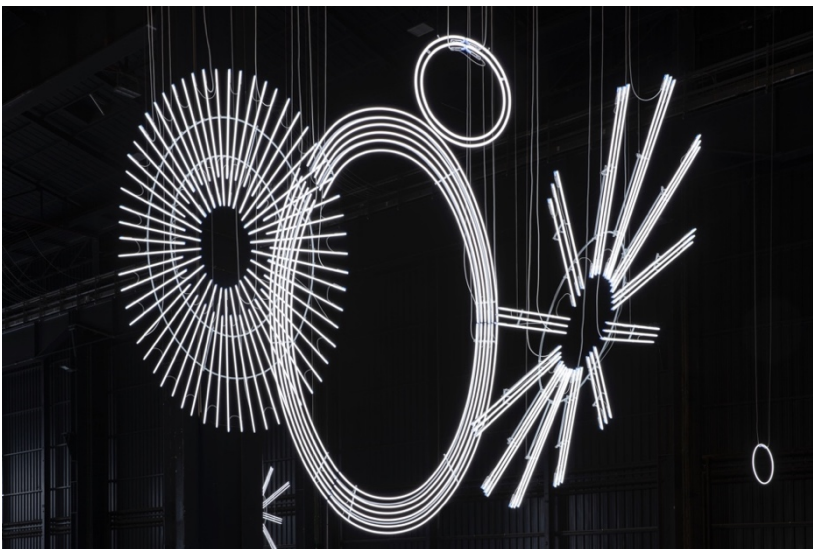
りんご前線 —Hirosaki Encounters (仮)

会期：2021年9月18日(土) - 2022年1月30日(日) (予定)

弘前れんが倉庫美術館 (青森県・弘前市)

第二部(秋冬プログラム)【会期：2021年9月18日(土) - 2022年1月30日(日) (予定)】は、「りんご前線—Hirosaki Encounters」と題し、りんごのテロワール(土壌)である「弘前」と、異なる気団の境界・交線で起こる大きな気象の変化や、運動の第一線などを意味する「前線」をキーワードとして、異文化との出会いや新たな解釈から生まれた作品、さらには弘前の土地に関する作品や、弘前ゆかりのアーティストらの活動に注目します。

本展ではケリス・ウィン・エヴァンスの作品を基点としつつ、第一部とは異なる複数のアーティスト、作品ラインアップによる展示をご覧ください。改めて地域の創造的魅力に注目するとともに、ひとつの作品を核とした二部構成で展示を行うことで、より自由な展示のリズムと空間の使い方を探り、作品の多様な解釈を促します。



ケリス・ウィン・エヴァンス《Radiant Fold (...the Illuminating Gas)》2017-2018

Installation view at Pirelli HangarBicocca, Milan, 2019.

Courtesy of the artist; Amgueddfa Cymru –National Museum Wales and Pirelli HangarBicocca.

Photo: Agostino Osio [参考図版]

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川 (公)

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

2021年1月20日

FAX: 0172-55-5982 または E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp

弘前れんが倉庫美術館 (青森県弘前市)

りんご宇宙 —Apple Cycle / Cosmic Seed

会期：2021年4月10日(土) - 8月29日(日)

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください。

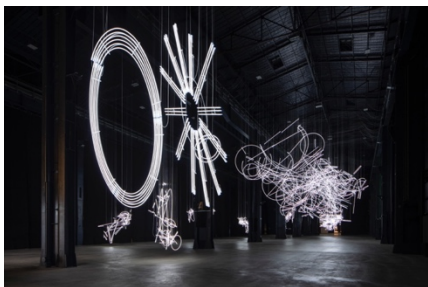
媒体名	貴社名	
ご担当者	所属部署	
ご住所 〒		
電話番号	FAX 番号	E-MAIL

掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。

読者プレゼントのご希望 希望する 組 名様 (2021年4月30日迄 掲載対象) 希望しない
*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

[1]



[2]



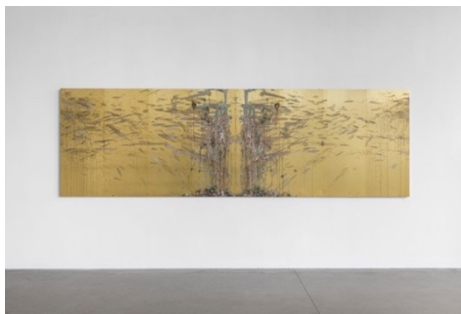
[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



[8]



広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

- [1] ケリス・ウィン・エヴァンス “...the Illuminating Gas” Exhibition view at Pirelli HangarBicocca, Milan, 2019.
Courtesy of the artist and Pirelli HangarBicocca, Milan Photo: Agostino Osio [参考図版]
- [2] 雨宮庸介《Apple》2018年 Courtesy of SNOW Contemporary
- [3] 河口龍夫《関係—鉛の郵便・ふた粒のリンゴ》1988年 Courtesy of SNOW Contemporary
- [4] タカノ綾《Near the Source》2017年 ©2017 Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
- [5] 和田礼治郎《VANITAS》2017年 Photo: Enric Duch Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE
- [6] ジャン＝ミシェル・オトニエル《エデンの結び目》(Simulation from the artist studio) ©Othoniel Studio
- [7] 笹本晃《スピリッツの3乗》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 ©Aki Sasamoto Photo: Naoya Hatakeyama
- [8] 潘逸舟《おにっこのち》2020年 Courtesy of the artist [参考図版]

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までFAX またはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1